

日本看護歴史学会 会報

日本看護
歴史学会
第45号
2005年11月15日

歴史を正しく読みとる力 —理事長就任に当たって

川 嶋 みどり

この夏、第40回ナイチンゲール章の受章者の一人、久松シノ姉の自伝（凜として看護—春秋社刊）の編集をさせて頂いた。あの原爆投下時、爆心地にごく近い長崎医大で婦長として勤務中の被爆であった。瓦礫の中から這い出て、自らも放射線障害に苦しみながら、上司であった永井隆博士らとともに被爆者の救護に当たった。姉の記憶は今なお鮮明だが、さらにそれを裏付ける資料として、「長崎医大原子爆弾救護報告」を参考にした。

この報告書は、被爆直後(1945年8月～10月)に永井が書いたもので、単なる被爆体験記ではなく、学術的にも貴重な資料として評価されている。週刊朝日の1970年7月臨時増刊号にその全容が掲載された。すべてがあまりにも豊か過ぎる現在、医薬品も医療材料も殆どない中で、当時の救護の状況を正しく理解するには、相当の想像力を要した。

これを読み、改めて歴史という言葉には、「起こったこと」と「起こったことの記述」という意味があるということが実感できた。永井の筆力によって、あの悲惨な地獄図をリアルに見ることができ、医学者としての理性による優れた事象の分析に目を奪われた。また、その記述された事実の底に潜む真実から、現在も進行形である大規模自然災害被災者への、



第19回学術集会を終えて—チームワークと主体性—

2004年残暑の中、藤村龍子学術集会長と東海大学湘南校舎松前記念会館並びに松前会館を下見し、「来年の夏はここに何名の参加者に来て頂けるのか」と考えつつ、総務課に挨拶に伺いました。その後の企画、準備はもっぱら学術集会長のリードの元で進んで行きましたが、200名近い参加者を迎えることができ、盛況の内に2日間の学術集会を開催できたことに心から感謝する次第です。

本来、教育とは先人の知恵を後の世に生きる人々に引き継ぐ活動であると考えます。今回の学術集会では、幅広い年齢層の参加者を迎え、我が国における黎明期の看護教育から、今日の看護学教育への変遷を再確認できたとともに、これからの看護学教育への示唆を得ることができたものと思います。

さらに、明治・大正から戦前・戦後の貴重な写真や資料に触れ、過去の看護教育の先進性に驚かされるとともに、その記録を残した先輩諸姉の熱意と大

支援に活かす多くの教訓を学べることも。

戦後60年という節目は、多くの人びとの関心を歴史に向かせた。とりわけあの太平洋戦争をめぐる「歴史認識」が国際的にも問われ、政治問題にもなりかねない現実もある。テレビなどの普及によって、あまりにも安易に入って来る情報は、紙面を通して読む場合とは質を異にする。本当は、心にしっかりとどめておかなければならない重要事があっさりとして流されても、それに気づかぬままに過ぎて行く。かと思えば、二度と起きて欲しくない残忍な事件が、繰り返し延々と報じられる。

こうして、知らず知らずのうちに、物事を考える力まで他力本願的になってしまっているはいないか。大切なことは、それぞれがメディアの論調に左右されない史観を持って判断することだと思う。その意味からも、日常的に事実を正しく見る力、その事実の意味について深く考える力を身につけておく必要がある。日本看護歴史学会の一員として、史実を正しく読みとる力を相互に鍛えるとともに、看護をめぐる動きに対して、その時生きている者がどう判断しどう動くかが、歴史をつくって行くことを認識しなければならぬと思う。

そうした中、看護史を選択した若い学生達が、過去と現在をつなぐ学びの過程で、目を輝かせていたことを思うと、これからの学会のあり方を考える上での示唆を得たように思い、心強い限りである。

実行委員長 小島善和

(東海大学健康科学部看護学科)

切に保管あるいは埋もれた史料を発掘しようとするご努力に感銘を受けました。

また、発表者はもとより、多くの参加者の主体的発言に触れ、学術集会を通じて世代、立場を超えた交流の輪の広がりを実感できました。

学術集会の開催準備から運営に渡って、一人一人の実行委員がチームワークよく主体的に活動していただき、その活躍に深く感謝いたします。



藤村龍子学術集会長と
実行委員



特別講演「日本の近代と大学の歴史—大学の源流を探る」演者の寺崎昌男先生、司会の菅原スミ先生と藤村学術集会長

日本看護歴史学会学術集会に参加して

この夏、第19回日本看護歴史学会学術集会に初めて参加させていただいた。看護歴史学会の存在は、大学時代のゼミの先生から聞いてはいたが、実際にはどういったものかはわかっていなかった。今回の学会も職場の先輩である剣持さんや川村さん（会員；東海大学付属病院勤務）からお話をいただかなかたら参加していなかっただろう。

看護の歴史については、学生時代に看護学概論の講義で習った以来、自分の頭からかけ離れていたが、今回の学会に参加して、奥が深く、興味深いものと改めて感じた。

交流セッション「男性看護師の組織化の歴史」に参加したのは、大学時代の卒業論文で男性看護師に関連したことを調べてみて、興味をもったからだった。自分が勤務している東海大学医学部付属病院では、男性看護師が70人と多く、職場においても働きやすい環境にあると言えるだろう。しかし、全国で見ると、まだまだ男性の割合が少ないのが現状である。特に、都市部と地方の割合の差は明らかに異なっている。このセッションの中で論議されたよ

新村 修 （東海大学医学部付属病院）

うに、看護師の男女の間で性差なく対等の立場にあるのか、男性看護師の需要が増えてきているが男性にとって不利益なことはあるのかなど、今後考えていかなければならない課題だろう。男性看護師の組織化についてのテーマは、今後の学術集会でも継続されるテーマだということで、今後の経過をととても楽しみにしている。

その他の諸先生方が発表された演題は聴くことができず、とても残念ではあったが、機会があればまた参加したいと思っている。

今後の看護をよりよいものにしていくためには、今まで看護の歴史を作り上げてきた素晴らしい方々の考えに耳を傾け、それを新たに開拓していくことが重要であると思う。

最後に、この会に誘ってくれた剣持さんと川村さん、そしてこのような機会をくださった大石先生（会報担当）に深く感謝するとともに、これからの日本看護歴史学会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



シンポジウム「学校史を発掘する」シンポジストの芳賀佐和子先生、松本女里先生、依田和美先生と司会の川嶋みどり先生



交流セッション①「男性看護師の組織化の歴史」



講演を聴く参加者

日本看護歴史学会第19回学術集会収支決算報告

開催日 平成17年8月27日、28日

収入の部			
科目	予算額(円)	決算額(円)	備考
大会参加費	800,000	986,000	5,000×90=450,000(会員事前振込分) 6,000×29=174,000(非会員事前振込分) 2,000×2=4,000(学生事前振込分) 6,000×16=96,000(会員当日参加費) 7,000×34=238,000(非会員当日参加費) 2,000×12=24,000(学生当日参加費)
公的補助金	100,000	240,000	東海大学総合研究機構 200,000 溝口満子様 10,000 医学映像教育センター 10,000 東海教育産業 20,000
広告費	50,000	50,000	医学映像教育センター 10,000 東海教育産業 10,000 医学書院 10,000 日本看護協会出版会 10,000 港北出版 10,000
その他		1,500	抄録1冊
計	950,000	1,277,500	

支出の部			
科目	予算額(円)	決算額(円)	備考
会場設営費	20,000	39,350	パネル、会場使用謝礼
当日運営費	270,000	521,392	講師・協力員昼食代(107人分)、協力員謝礼、生花など
会議費	80,000	99,435	企画・実行委員交通費、シンポジスト事前打ち合わせ交通費他
講師謝金	150,000	147,500	講師謝金、交通費など
通信費	80,000	76,730	郵送料他
印刷費	250,000	261,740	封筒、ポスター、抄録印刷
事務費	100,000	95,353	ネームカードケース、用紙など消耗品、講演テーブル起こし料他
計	950,000	1,241,500	

収入1,277,500円-支出1,241,500円=残金36,000円
(日本看護歴史学会へ寄付)
以上、報告いたします。

平成17年10月15日 会計担当 東海大学健康科学部
佐藤正美・高橋奈津子

日本看護歴史学会 2004年度決算報告

収入の部 04.4.1~05.3.31 (単位 円)

項目	予算額	決算額	備考	差引額
会費	720,000	972,000	会員 206口 新入会員 37口	252,000
寄付金その他	40,000	109,290	学会誌・会報売上げ (送料込) 84,280 第18回大会からの寄付 25,000 利子 10	69,290
前年度繰越金	1,031,145	1,031,145		0
合計額	1,791,145	2,112,435		321,290

支出の部

項目	予算額	決算額	備考	差引額
幹事会開催費 (理事会) 大会時、新旧合同幹事会	500,000	28,469	大会時、理事会参加者9名 会議費 (1,819) 弁当代 (26,650)	471,531
編集委員会費	230,000	48,950	8/24 2,500×7名 会議費 (17,500) 通信費 (20,330) 論文郵送等切手代 文具 (11,120)	181,050
出版費 会報発行費 学会誌発行費	360,000 (60,000) (300,000)	288,030 (54,180) (233,850)	42号、43号 17号	71,970
事務経費 印刷費 通信費 人件費 文具、その他	530,000 (80,000) (150,000) (200,000) (100,000)	352,467 (44,729) (119,650) (133,820) (54,268)	選挙用封筒印刷等 (20,999) 振込用紙印刷等 (23,730) 選挙書類送付切手代 (38,200) 学会誌・会報発送代等 (81,450) 選挙管理 (5,000) 2名×2.5h×1,000、事務局 (128,820) 109h×1,000、交通費19,820 選挙用タックシール、A4用紙等 (1,995) 事務局タックシール他文具、宅配代 (52,273)	177,533
諸会費	80,000	80,000	日本看護学会連絡協議会*	0
予備費	91,145	0		91,145
合計	1,791,145	797,916		993,229

*正式名称は「日本看護系学会協議会」であるが、振込み口座名は「日本看護系学会連絡協議会」であったため支出先名称を使用
次年度への繰越金 2,112,435円-797,916円=1,314,519円

2004年度特別会計報告

特別会計収支

項目	収入	支出	残額
前年度繰り越し			1,242,077
利子	48		1,242,125
テレフォンカード売上	5,600		1,247,725
第18回大会より返金	-200,000		1,447,725
第19回学術集会へ貸出し		200,000	1,247,725

2004年度 残高 ￥1,247,725

日本看護歴史学会 2005年度予算

収入の部 05.4.1~06.3.31 (単位 円)

項目	予算額	摘要	前年度決算額
会費	1,020,000	6,000×170名	972,000
寄付金その他	40,000	学会誌等の売上げ	109,290
前年度繰越金	1,314,519		1,031,145
合計	2,374,519		2,112,435

支出の部

項目	予算額	摘要	前年度決算額
*会議費 理事会 総会	450,000 (400,000) (50,000)	年2回(4/2新旧合同理事会実施) 学術集会時総会開催に関わる費用	28,469
*委員会活動費 広報委員会 編集委員会 企画委員会 特別委員会 研究活動推進委員会	550,000 (50,000) (200,000) (50,000) (200,000) (50,000)	広報・情報管理に関する運営 年5回開催、査読、学会誌編集 会報編集、規約改正等 20周年記念事業推進 研究活動の推進	48,950
出版費 会報発行 学会誌発行	360,000 (60,000) (300,000)	年2回44号、45号 第18号	288,030
事務経費 印刷 通信 アルバイト 文具・その他	470,000 (50,000) (120,000) (200,000) (100,000)	封筒、会員カードその他 会報2回、学会誌1回発送 1,000×200h 文具・振込み手数料、交通費等	352,467
諸会費	80,000	日本看護学会協議会	80,000
予備費	464,519		0
合計	2,374,519		797,916

*新規に設定

日本看護歴史学会
2004年度会計監査結果報告書

2004年度に關する会計を監査したので報告します。

1. 監査実施日 2005年7月25日

2. 2004年度決算監査結果
2004年4月1日から2005年3月31日までの会計収支報告書について会計業務執行状況の監査を行いました。
会計担当理事中より関係書類及び預金通帳の現物の提示を受け、会計収支報告書に基づいて厳正な監査を行った結果、日本看護歴史学会の2004年度の収支を適正に表示していることを認めました。

平成17年7月25日

日本看護歴史学会 会計監査 岡崎寿美子
会計監査 芳賀佐和子

金子光先生逝去

特別会員の金子光先生が8月14日、心不全のために逝去されました。91歳でした。

昨年開催した日本看護歴史学会第18回大会交流セッションでは、「戦中・戦後の体験を語る－厚生省看護課長時代」のパネラーとしてお話していただきました。

感謝をこめてご冥福をお祈りいたします。



金子光先生 (2004年撮影)

特別会員に高岡スミ子さん

本年度の総会で推薦され、承認されました。

特別会員は日本看護歴史学会会則第3章第7条に「特別会員は、看護の歴史上、有用な時代の証言者、貴重な史料の発掘を行った者または優れた業績を確立した者であって、本会の学術集会及び適宜開催される学習会等において協力を得られる者の中から理事会の議を経て総会に推薦するものとする」と規程されています。

お知らせ

第19回学術集会開催の総会で配布した2005年度活動計画に追加・修正がありました。総会において、追加・修正箇所を会員の皆さまに文書で周知することが確認されました。下線がその箇所です。

- ◆会報発行：2回（第44号、第45号）
- ◆学会誌発行：1回（第18号）
- ◆委員会活動の推進

◆第7期理事役割分担

理事長：川嶋みどり
 副理事長：草刈淳子
 企画（会報、規約）：大石杉乃、高橋みや子
 編集（学会誌）：岡山寧子、依田和美
 広報：氏家幸子、岡崎寿美子
 総務：田中幸子、平尾真智子
 川原由佳里（指名理事）、大石杉乃
 研究活動推進：草刈淳子、氏家幸子
 情報管理：日下修一（指名理事）
 監事：藤村龍子、山本捷子

◆20周年記念事業プロジェクトチームメンバー

川嶋みどり、高橋みや子、氏家幸子、草刈淳子、大石杉乃、平尾真智子



新入会員紹介

*（ ）内は会員番号

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 長瀬 雅子(05-010)
〔東海大学〕 | 春日 広美(05-019)
〔東京慈恵会医科大学〕 |
| 大場 信子(05-011) | 松本 女里(05-020) |
| 加藤さゆり(05-012) | 志茂 豊子(05-021) |
| 佐藤 正美(05-013)
〔東海大学〕 | 高橋シズエ(05-022) |
| 辻 幸代(05-014)
〔和歌山県立医科大学〕 | 神崎 祐子(05-023) |
| 加藤二三江(05-015) | 土谷 悦子(05-024) |
| 菊池麻由美(05-016)
〔東京慈恵会医科大学〕 | 佐野 麻実(05-025) |
| 羽入千悦子(05-017)
〔東京慈恵会医科大学〕 | 菅原 スミ(05-026) |
| 木村美智子(05-018)
〔日本赤十字豊田看護大学〕 | 山内 幸子(05-027) |
| | 樋野 恵子(05-028) |
| | 上里利恵子(05-029) |

日本看護歴史学会 第20回学術集会

学術集会テーマ 歴史を拓くー看護教育120年を未来へ繋ぐー
 学術集会長 芳賀 佐和子
 開催日 2006年8月25日（金）26日（土）
 会場 東京慈恵会医科大学（西新橋キャンパス）
 25日（大学1号館）／26日（慈恵看護専門学校）

〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8（最寄り駅：御成門駅、神谷町駅、新橋駅）

日本の看護教育が開始されてから120年余りがたちました。社会の変化や看護教育の変遷の中で、看護は真の専門職を目指して努力しています。本学会では、歴史的歩みの中で得られた看護の叡智を集結し、今後の発展に繋げていきたいと考えています。

第20回の学術集会は、看護教育発祥の地で開催します。人々の健康の担い手としての看護者の教育や実践のあり方について、過去・現在・未来を歴史的視座でみつめ、教育や臨床現場の方々とともにより良い看護の発展と歴史研究の方向性について、意見交換ができますことを期待しております。

慈恵ナースリカちゃん

日本で最初の看護学校創立当時の看護学生の姿を再現しました。第20回学術集会事務局が企画に参加しました。



ご注意ください

年会費は6000円です

2004年度総会で、年会費値上げが了承されました。本学会は、皆さまからの会費収入で運営しております。ご協力をお願いいたします。なお、会則6条の規程により、会員の資格を失うこととなりますので、ご注意ください。

学会事務局

加入者名 日本看護歴史学会
口座番号 01010-1-52185

編集後記

はじめて学術集会に参加された新村修さんの記事を掲載することができた。このような記事は大歓迎です。（す）

看護歴史に関する写真を集めています

理事会では日本看護歴史学会発足20周年を記念して、写真集または写真パネルの製作を検討しています。お貸しいただける方は下記の住所にご連絡をお願い致します。

〒182-8570
東京都調布市国領町8-3-1
東京慈恵会医科大学医学部看護学科
大石杉乃 e-mail kiso2@jikei.ac.jp
Tel 03-3480-1151

日本看護歴史学会会報 第45号

企画・編集 高橋みや子（山形大学）
 大石杉乃（東京慈恵会医科大学）
 発行責任者 田中幸子（北里大学看護学部）
 事務局 〒228-0829
 神奈川県相模原市北里2-1-1
 北里大学看護学部 田中幸子
 Tel&Fax 042-778-9826
 e-mail nhistory-gakkai@umin.ac.jp